

令和4年度 南房総市介護保険事業運営協議会第1回会議 議事要旨	
日 時	令和4年12月5日(月) 18:25~20:00
場 所	三芳農村環境改善センター 2階 大会議室
出席者	<p>【委員】 鈴木定一委員、神作紀史委員、岡山貢一委員、鈴木隆志委員、加瀬浩一委員、大橋輝巳委員、嶋田暁委員、半澤和昌委員、間宮俊一委員</p> <p>【事務局等】 保健福祉部 相川部長 高齢者支援課 小林課長、目良課長補佐、佐野係長(介護保険係) 山口保健師長兼係長(高齢者福祉係)、高梨副主査、渡辺主事 健康推進課 平嶋課長、在原課長補佐兼保健予防係長</p> <p>株式会社ぎょうせい 酒井シニアマネージャ、中井研究員</p>
欠席者	生方英一委員、高梨節子委員、渡辺淳子委員
開催形態	公開
内 容	<p>1 役員選出</p> <p>2 報告 (1) 報告第1号 第9期高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の実施状況について (2) 報告第2号 指定地域密着型サービス事業所等の指定状況について</p> <p>3 議事 (1) 議案第1号 第10期高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画について</p>
報告等	<p>1 役員選出 会長選任について、加瀬委員から会長推薦あり。委員一同異議なく、会長は神作委員に決定した。</p> <p>2 報告 (1) 報告第1号 第9期高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の実施状況 (事務局) 「第9期高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の実施状況について」を説明。 — 質疑・応答なし —</p> <p>(2) 報告第2号 指定地域密着型サービス事業所等の指定状況について (事務局) 「指定地域密着型サービス事業所等の指定状況について」を説明。 — 質疑・応答なし —</p>

3 議事

(1) 議案第1号 第10期高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画について

(事務局)「第10期高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画について」を説明。

○大橋委員

報告の件についての質問を少しさせてもらいたいと思いますが、初めに、前回の運協のときの説明にありましたが、先ほどの説明の中で24時間体制は必要ですという話があったのですけれども、その中で看多機のお話があったと思います。開設の予定が令和5年3月31日ということで、この協議会の中で報告があったと思うのですけれども、今、その状況は、来年の3月31日ですので、どのようになっているのかということをお聞きしたいことです。

続けてしまってもいいですか。一つ一つのほうがいいですか。

○神作会長

一つずつをお願いします。

まずそのところをお願いします。

○事務局

まず看多機の状況なのですけれども、予定としましては、令和5年3月31日ということで前回の協議会でお話をさせていただいたのですけれども、事業が遅れておまして、今、開設予定日が令和5年の9月という形で事業がずれ込んでいる状況です。

○大橋委員

分かりました。ありがとうございます。

そうすると、9期の今後の計画に向けてということで何点か質問させてもらいたいと思うのですけれども、まず報告の中で認定数が減っていますという話なのですが、それと高齢者の方の人口の減少もあります。もちろん人口減少に伴って、高齢者の比率が上がっていくわけなのですけれども、昨今の物価上昇とか、あるいは年金の減少等々を考えると、今後の南房総市の介護保険料は、一体どういう形で推移していくのだろうか。

即答できないのであるならば、持ち越しても構わないのですが、人口が減っていく中で、確かに高齢者の比率、高齢化率は上がっていく想定はできるのですが、しかし、いずれその人間が減少していく中では、サービスの必要性がいつまでも現状を維持することは考えられません。そうした場合、介護保険料は下がるのですか。そのところで、今は難しいと思うのですけれども、見解としてこうなのかというところでお話ができればと思います。

○事務局

まず要介護・要支援の認定者数の状況なのですが、資料の9ページ中段に(2)要介護(支援)認定者数ということで、令和4年度9月末現在の認定者数がございます。上段に2号を含めた認定者数が3,384という形で記載があるので、第1号被保険者数よりも、2号を含めた認定者数で給付費は算定しております。

また、今後の給付の状況等もございますので、次の計画のときの保険料の部分が上がる、もしくは人口の減少によって下がるというのは、介護保険事業の整備の状況等もございますので、次期の計画の策定でのアンケート調査等を実施した上で積算をしていきたいと考えております。

○大橋委員

ありがとうございます。

いずれにしても、施設が増えていけば、その分だけ介護保険料が上がっていくところは致し方ないことなのだろうと思うのですが、必要以上の施設は要らないということなのでしょうね。

先ほどの説明の中で、24時間対応の施設はどうしても必要ということがあったわけなのですが、大きな特養などの施設設備というのは、逆に言うと、介護保険料に大きく降り掛かってきます。今の高齢者、私も65歳以上ですので、利用する立場にあるわけなのですが、それも現状のまま、毎年、保険料がどんどん上がっていくというのは、あり得ないだろうと思っております。

もう一つ、今、9期のお話がありました。8期と同じような調査内容で行おうという話だったので、前回のときも共用型のお話をさせてもらったのですが、今、厚労省が進めている重層支援とか、あるいは伴走型支援というお話がございます。

基幹包括支援センターを役所の中に設けたわけなのですが、質問項目の中に単一的な介護保険のサービスということではなくて、8050問題みたいに一つのサービスで全てが完結することはない状況にあらうかと思っております。ですので、アンケートの質問内容として、従来型の質問内容ではなくて、重層型の質問も当然あっていいものなのだろうと思っております。

今、基幹型の包括の職員の方はいらっしゃるのですか。今の包括で関わっている重層支援の必要な案件というのは、どのような形で把握されているのですか。

○事務局

重層的な支援というか、8050とか、9060とか、そういったケースに関しては、様々なところから相談が入ってきていて、もちろん庁舎内の中では社会福祉課とか、教育委員会から入っていますし、それ以外に委託している包括支援センターからも入っていますし、民生委員さんだったり、在宅介護支援センターからも入ったりしています。

あと、直接御家族、あるいはそこに関わる別に住んでいる家族の方からとか、近所の方からとか、そういった形で相談が入ってきている状況です。

○大橋委員

ありがとうございます。

今、コロナの状況で人が集まらない環境下にはあるのですけれども、包括ケアシステムの構築ということで今までやってきたと思います。ケアシステムの構築もある意味重層支援とか、伴走型支援につながっていくところがあるかと思えます。

業者の方たちにはお願いがあるのですけれども、アンケートの質問内容の中に根底の部分に包括ケアシステムの構築ということで、構築している過程の中で、今、厚労省が言っている重層支援とか、伴走型支援にたどり着くようなアンケートの内容を考えていただけるとありがたいです。ありがとうございました。

○間宮委員

今の質問とも関係することなのですけれども、ヘルパーさんの派遣か何かをやっているところが大分倒産したということでテレビに出ているわけなのですが、東京商工リサーチによると、9月までに1,000件ということで、去年よりも大分多いです。

先ほどからある中で、21ページには、在宅型のサービスは地域で動かないということが書かれていまして、先ほどのお話では、要介護度の増加と高齢化がありまして、要はお金がかかる方向に進んでいて、このまま在宅サービスを放っておくと、お金のかかるほうへどんどん進んでしまうような印象をちらっと受けました。

片やヘルパーさんの派遣では、ITを使って事務コストを安くする動きがありまして、ヘルパーさんが1,000万稼ぐというようなベンチャーが出てきていて、田舎では考えにくいことなのですけれども、そういうこととか、バックオフィスが6割に近いということで、事務を簡略化して、ヘルパーさんの開放度を上げることをやろうとしているところも幾つかございまして、事務コストはiPadなどを使っていて、年寄りでもできます。年寄りは事務が苦手なのですが、介護は優しくできるというようなことでカバーしています。

そんなことがありまして、コロナの中で混乱した在宅サービスを復活させて、倒産に向かわないで、トータルとしての介護保険の費用を安くしたいというようなこともちらっと頭に浮かぶのですけれども、何か御説明をいただければと思います。

○事務局

先ほど介護保険事業のIT化というお話がありましたけれども、千葉県でも介護保険事業に関しまして、IT化に対する補助事業がございます。市としまして

も、介護保険事業のICT化に関する事業に対しては、各事業所さんに情報提供を行っておりますので、各事業所の判断において補助金を活用して、事務の効率化ですとか、そうしたものを行っていただければと考えております。

○神作会長

ほかに御意見、御質問はございますでしょうか。どうぞ。

○大橋委員

もう一つ質問させてください。15ページの報告書の中になるのですけれども、ボランティア移送サービス、外出支援バス利用助成と外出支援タクシー利用助成があって、なぜボランティア移送サービスと外出支援サービス利用が減っているにもかかわらず、タクシーの利用が増えています。社協さんがやっているバスの利用助成が減っているけれども、タクシー利用が増えています。これはどういうことなのでしょう。

今、我々の地域というのは、どうしても外出支援が必要で、買物等で必要なわけです。そうであるならば、タクシーの利用が増えた理由というのは利用勝手がいいのか、それとも、そうではなくて、別の理由があるのか、この辺はどのように考えられますか。

○事務局

ただいまの質問についてお答えします。まず1点、補足で解説させていただきたいのですけれども、社協さんがやっているボランティア移送サービス事業につきましては、参考で記載させていただいているのですけれども、介護保険事業として実施しているわけではありませんので、介護保険のお金が入っているサービスではないということで、まず御承知おきいただきたいと思います。

また、外出支援バス、あるいはタクシーにつきましても、介護保険のお金が入っているサービスではありません。

その上で、御質問についてお答えいたしますと、特にコロナ禍においては、ワクチン接種の推進のためにタクシー券があります。通常はこちらのサービスは、バス、タクシーの外出支援のサービスを使っている方向けに、ワクチン接種に行くためのタクシー券をお配りしますということを2年間取り組んでまいりました。

結果として、タクシーの需要は非常に伸びまして、本当にタクシーがつかまらなくて困っているというような相談をいただくようなぐらいまで、タクシーの利用は伸びております。ワクチン接種のためという短期的な需要があって、その結果、外出支援のタクシー券をもらえるなら欲しいという形で利用が伸びたと担当としては感じております。

ただ、ワクチン接種を除いた状況で考えますと、コロナによって外出自体が自粛になりまして、バスだけではなく、タクシーの利用、特に一般の通院であるとか、あるいは買物であるといった利用でのタクシーの利用というのは、こちらで

調べている限り減少しておりますので、その点について頭に入れていただきながら、こちらのデータを読んでいただければよろしいと思います。

以上です。

○大橋委員

ありがとうございます。

タクシーだと自宅の前から利用できます。バスだと停留所まで行かなければいけません。交通機関を使うに当たって、使い勝手のいい、悪いというのは、外出がワクチンであれ、買物であれ、何であれ、何か学べるようなもの、より使い勝手のいい方法があるのか。

ただ、経済的な問題もあろうかと思うのですけれども、今、高齢者の方たちが求めているのは、ドア・トゥー・ドアではないのですけれども、玄関・トゥー・玄関ではないのですが、ここに集まってこいではなくて、そこに行きましょうというような姿勢も必要になってきます。

そういう意味でも、南房総市は非常に外出困難な高齢者の方が多いものですから、アンケートの中にもそんなことが書かれていますけれども、コロナ禍にあって、コロナだけの理由ではなくて、コロナゆえに違いが見えてきている部分もあると思います。ありがとうございました。

○神作会長

どうぞ。

○鈴木（定）委員

今、議案第1号をやっているのですか。報告事項についての質問ではないのですよね。議案第1号に関してやっているので、それに関する御質問にさせていただければありがたいと思います。

○神作会長

それでは、委員の中から、議案第1号につきまして質問をとということですので、その辺を重々御了承いただきまして、御質問をお願いいたします。

○大橋委員

関連として質問しても良いですよ。

○神作会長

嶋田さん、お願いします。

○嶋田委員

福祉の嶋田です。

先ほど進行上で議案1号の質問はなくて、それで進んで、第2号議案に行ったのではないですか。それでもって、第2号議案に対して、今、質問をするということではないのですか。1号議案で質問はありますかといったら、誰も返事をしないで、ないということで進んだと思います。違いますか。ですから、今は第2号議案をやっているということです。1号議案、2号議案ではなくて、総合でやるということであれば、それはそれでいいと思います。

○鈴木（定）委員

第2号議案というのはあるのですか。議事は（1）しかないです。

○嶋田委員

報告の（1）と（2）は終わっています。

○神作会長

先ほど嶋田委員から御指摘がありましたけれども、今は議案第1号の第10期高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画についてのお話をさせていただきたいと思います。それが終わりましたら、その他の議事に移りたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、何かございますでしょうか。嶋田さん、よろしく願いします。

○嶋田委員

福祉の嶋田です。

29ページのアンケート調査についてお伺いします。①の調査で2,800通、その下に対象者が書いてあって、②の在宅介護実態調査の1,200通、対象者がその下に書いてありまして、私、どういう調査なのかと考えまして、この中で質問されている調査を自分でやってみました。

私は84歳です。これを一つ一つやっていると、普通に正常な方が考えることも大変な時間と判断が必要なのです。これは家族と一緒に考えたほうがいいとか、そういうことが書いてありますけれども、これは絶対に一般の人でも大変だと思います。この方法を抽出でやったら、通知をもらった人は余計に大変だと思います。何か方法を考えたらどうですか。

質問の文言を読んでいると、判断に苦しむところが結構あります。割りつけたら簡単なのですが、はてなと思うときがいっぱいありました。私は84歳で正常だと思っけていても、やってみて大変でした。

設問をする人は、老人の人までは設問をしていないと思います。健常者で若い人たちが考えたことだと思います。ですから、そういうことを考えて、アンケートをお願いしたいと思うのですが、私の希望です。回答は要りません。

○神作会長

ありがとうございました。
ほかにございますでしょうか。
加瀬さん、よろしく申し上げます。

○加瀬委員

今のアンケートの関連なのですから、2,800通、1,200通を出すということなのですが、回収率はどれくらいを見込んでいるのか、あるいは過去の計画策定の段階でどれくらいの回収率があったかということをお教えいただければと思います。

○株式会社ぎょうせい

今の御質問に関しては、株式会社ぎょうせいから御回答差し上げます。

(1)高齢者福祉を考えるためのアンケート調査の①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査につきましては、前回の回収率は78.1%ございました。②につきましては、前回は67.7%という回収率です。この回収率は、他市と比較しましても、比較的高い回収率を得ている状況です。

今回に関しても、調査につきましては、督促状という形で、配布した後、例えば1週間後程度のときに、感謝状兼まだお出しいただけていない方に関しては、いつまでが回答期限ですので、お出してくださいというような葉書きを出して、なるべく回収率を前回どおり維持しようと考えておりますので、今回につきましても、前回の回収率の維持を目標に掲げて実施するものでございます。

以上です。

○加瀬委員

ありがとうございました。

○神作会長

ほかにございますでしょうか。ほかに御質問はありますか。

それでは、ないようですので、議案第1号につきましては、承認とさせていただきます。

どうぞ。

○鈴木(定)委員

先ほどの大橋委員の御意見というか、それは入れるのですか。アンケート項目を検討することはあるのでしょうか。大橋委員からすごくいい意見があったので、それをぜひ反映していただきたいと私は思います。

○事務局

回答します。

○株式会社ぎょうせい

今の御質問に関しても、私から御回答差し上げます。

先ほど委員から重層的な支援に関しての現状とか、意向とか、そういったところの把握を今回のアンケート調査を通じて実施できないかというような御提案というか、御意見だったと思います。

今回のアンケート調査の項目の中には、計画全般という形で、国ですとか、市に対してこれからどういう施策を重視していけばいいのか、力を入れていけばいいのか、大きくするようなご質問が幾つかあったかと思えます。

その中に先ほど出てまいりました8050ですとか、ダブルケアですとか、今、よく言われているのは、ヤングケアラーの問題とか、そういった複合的な問題を抱えている御家庭に対する施策等を例えば選択肢の一つとして盛り込んで、それに丸をつけてくる方がどれぐらいいらっしゃるかと、先ほど委員から御指摘いただいたような重層的な相談に対して、どういう意向とか、希望を持たれているか、そういったところを選択肢として幾つかの質問に盛り込めるかどうか、事務局と検討しまして、反映できるものがあれば、反映していきたいと考えております。

以上です。

○大橋委員

よろしいですかね。8050とか、私たち介護職の中では当然のことに使われている言葉をそのまま投げかけるのではなくて、おじいちゃん、おばあちゃんたちに介護保険だけではなくて、ほかにも困っていることがありますかというような問いかけをしてもらいたいのです。ですので、アンケートを受け取る我々側の考えとして、おじいちゃん、おばあちゃんたちが回答するわけですので、できるだけ分かりやすいといいましようか、丁寧な言葉を使って、お困りのことは幾つありますかとか、そういうようなことで聞いていただくと大変ありがたいです。よろしくをお願いします。

○神作会長

ありがとうございました。

間宮委員、よろしくをお願いします。

○間宮委員

アンケートの在宅生活改善等調査というところが71ページにあるのですけれども、私が見たニュースでは、ヘルパーさんの高齢化とか、採算が悪いなどで、全国的に見れば、撤退するところが多くて、南房総市の調査でも、先ほどのページに

ありましたように、向いていないというようなことが書かれているわけです。

アンケートの項目として、経営が苦しいかとか、撤退を考えているかとか、撤退を考えていると書く人はいないかもしれないのですが、その辺は分からないのですが、経営面のアンケートも補助金が足りないとか、経費で重たいところは何なのかとか、NHKのニュースでは事務経費が重たいと言っていたのですが、ニュースを当てにしてもしょうがないし、居宅介護をすぐにやめないようにと、もう少し中に入るアンケートの内容を含めていただければと思います。

以上です。

○神作会長

よろしく願います。

○株式会社ぎょうせい

今の御質問に関しても、私から御回答差し上げます。

恐らく今の御質問、御意見に該当する調査としましては、64ページをお開きください。今回、介護サービス提供意向等調査、法人を対象とする調査がありまして、この中の66ページになります。問3としまして、現在の介護給付・介護予防給付の提供状況をお聞きする質問と、今後、この計画自体は3年間の計画になりますので、令和6年度から令和8年度までの提供意向を確認する御質問がございます。提供意向の選択肢の中には、新設したい、あるいは拡充したい、現状維持というものもあれば、一方で、縮小したいとか、廃止したいというような、各事業者様の今後の意向を確認する設問がございます。

そこでまず一つ、今後の事業者の在り方を把握することができます。運営上、あるいは経営上の課題となりますと、今のところは具体的な設問は設けられていないのですが、恐らく69ページになりますが、一応問8として、運営とか、経営などに関する課題についてお聞きする設問もあるのですが、その後の問9の自由記述の中で、問8に出てきているような経営上、運営上の課題に関して、事業者さんが思うところを自由にお書きいただくような形で欄を設けられております。ですので、今の御質問、御意見に該当する調査としましては、介護サービス提供意向等調査が当てはまるのではないかと考えます。

以上です。

○間宮委員

どうもありがとうございました。勉強不足で失礼しました。

○神作会長

ほかにございますか。

ないようですので、議案第1号につきましては、承認することといたしたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

	<p>それでは、以上で議事を終了いたします。</p>
資料	<p>報告第1号資料「第9期高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の実施状況について」</p> <p>報告第2号資料「指定地域密着型サービス事業所等の指定状況について」</p> <p>議案第1号資料「第10期高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画について」</p>